

中期計画等実施経費による研究プロジェクト成果概要報告書

報告者氏名・所属	宮前耕史・釧路校
プロジェクトの名称	教師を対象とした「食育」指導力向上のための 「農家民泊体験実習」プログラムの開発
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に○を付す こと	内山 隆・釧路校・教授（釧路校教育実習委員会委員長） ○宮前耕史・釧路校・准教授 半澤礼之・釧路校・准教授
事業の進捗状況	
<p>【平成25年度】</p> <p>平成25年度には試行プログラムの実施、効果検証およびプログラム改善を行った。具体的な実施日程は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月12日（金）受講案内（教育フィールド研究ガイダンス） ・ 5月20日（月）事前ガイダンス① ・ 5月22日（水）事前ガイダンス② ・ 5月31日（金）～6月2日（日）農家民泊体験実習 ・ 6月8日（土）事後指導 ・ 10月26日（土）北海道教育大学釧路校ESD推進センター主催シンポジウム「命の糧『食』の価値を感じ・考え・伝えるために―教師を目指す学生を対象とした酪農家民泊体験実習の試み」における成果発表 ・ 3月4日（火）プログラム改善のための研究打合せ <p>【平成26年度】</p> <p>平成25年度（第1年目）における試行プログラム実施より得た成果と反省に基づいて、第2年目となる平成26年度においては、改善プログラムの実施、効果検証とさらなるプログラム改善を行った。具体的な実施日程は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月11日（金）受講案内（教育フィールド研究ガイダンス） ・ 5月12日（月）事前ガイダンス① ・ 5月14日（水）事前ガイダンス② ・ 5月30日（金）～6月1日（日）農家民泊体験実習 ・ 10月25日（土）北海道教育大学釧路校ESD推進センター主催シンポジウムにおける成果発表 ・ 11月27日（木）反省会およびプログラム改善検討会議（第1回@根室農業会館） ・ 3月27日（金）プログラム改善検討会議（第2回@根室農業会館） <p>【平成27年度】</p> <p>最終年度（第3年目）となる平成27年度においては、さらに改善を加えたプログラムを実施した。中標津で開催した関係者向け「フォーラム」の他、日本教師教育学会・日本教育大学協会研究集会等で報告・成果発表を行うと同時に、本研究が本学とJA北海道中央会との農業体験連携事業に採択されたことから、さらなるプログラム改善に向けた研究打合せを行っている。具体的な日程は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月10日（金）受講案内（教育フィールド研究ガイダンス） ・ 5月11日（月）事前ガイダンス① ・ 5月13日（水）事前ガイダンス② ・ 5月29日（金）～31日（日）農家民泊体験実習 ・ 8月4日（火）反省会およびプログラム改善検討会議（第1回@根室農業会館） ・ 9月20日（日）日本教師教育学会における成果発表（半澤礼之・宮前耕史「『酪農家民泊体験実習』プログラムを通じた大学生の知識構造の変化と将来展望形成」） 	

- ・10月10日（土）日本教育大学協会平成27年度研究大会における成果発表（宮前耕史・半澤礼之・内山隆）
- ・11月7日（土）根室地区農協連絡協議会主催・北海道教育大学釧路校ESD推進センター共催シンポジウム「農と学びの連携を考えるフォーラムin根室2016」における成果発表（@中標津ウェディングセンター寿宴）
- ・2月18日（木）プログラム改善検討会議（第2回@根室農業会館）

成果の概要（見込み）

本プロジェクトでは、第一次産業を基幹産業とする北海道の地域特性を生かし、食糧生産基地・北海道に所在する唯一の教員養成大学として、第一次産業体験と農家民泊体験実習を軸とする教師の「食育」指導力向上のためのプログラムを作成・実施した。

「体験」を軸として、第一次産業や「食」や「食育」の重要性・必要性に関する教師自身の身体レベルでの理解を進めることで、教師は自信と信念をもって児童・生徒の「食育」指導にのぞむことができるようになった。また、教師および児童・生徒が身体レベルで「食」とこれを生み出す第一次産業の価値を理解することで、これを北海道をはじめとする食糧供給地域の持続可能性の基盤とすることができた。

また、上記のような成果の日本教師教育学会・教大協研究大会等での報告・発表を通じ、「食育」や学校・教師および教員養成大学の地域貢献・社会貢献の新たなあり方を本学から発信し、共有することができた。

「酪農家民泊体験実習」の実施により、「命の糧・食」やこれを生み出す第一次産業・農山漁村の価値に気付くと同時に「地域」やそこに生きる「人」への感謝や畏敬・尊敬の念を抱いた真の「地域に根ざした教師」養成が可能である。このことを通じて、本研究の成果は学校現場や地域課題解決に資することができる。

達成度

2

←当初に掲げた目標、到達点や期待される成果に対する達成度を番号で記入。

1.目標を達成した 2.ほぼ達成した 3.あまり達成できなかった 4.達成できなかった

成果の公表の状況（予定を含む）

【シンポジウム、学会発表等】

■第1年目（2013年度）

- ・北海道教育大学釧路校ESD推進センター主催シンポジウム「命の糧『食』の価値を感じ・考え・伝えるために一教師を目指す学生を対象とした酪農家民泊体験実習の試み」2013年10月26日（土）釧路校402講義室
- ・添田祥史・近江正隆・神田房行・宮前耕史・白鳥千咲・梶りな・安達永補・小幡泰弘・今泉博2014「命の糧『食』の価値を感じ・考え・伝えるために一教師を目指す学生を対象とした酪農家民泊体験実習の試み」北海道教育大学釧路校ESD推進センター『ESD・環境教育研究』第16巻第1号

■第2年目（2014年度）

- ・北海道教育大学釧路校ESD推進センター主催シンポジウム「命の糧『食』の価値を感じ・考え・伝えるために一教師を目指す学生を対象とした酪農家民泊体験実習の可能性」2014年10月25日（土）釧路校402講義室
- ・宮前耕史・大森享・半澤礼之・近江正隆・伊藤美実・佐々木貴子・玉井康之2015「命の糧『食』の価値を感じ・考え・伝えるために一教師を目指す学生を対象とした『酪農家民泊体験実習』の可能性」北海道教育大学釧路校ESD推進センター『ESD・環境教育研究』第17巻第1号

■第3年目（2015年度）

- ・宮前耕史・半澤礼之・内山隆2015「『食育』指導力向上のための『酪農家民泊体験実習』プログラムの開発」2015年10月10日、日本教育大学協会平成27年度研究集会、大宮ソニックシティ

- ・半澤礼之・宮前耕史2015「『酪農家民泊体験実習』プログラムを通じた大学生の知識構造の変化と将来展望形成」2015年9月20日（日）日本教師教育学会第25回研究大会、信州大学
- ・根室地区農協青年部連絡協議会主催・北海道教育大学釧路校ESD推進センター共催シンポジウム「根室地区農協青年部×北海道教育大学釧路校 農と学びの連携を考えるフォーラム2015in根室」2015年11月7日（土）中標津ウェディングプラザ寿宴
- ・久保拓伸・宮前耕史・半澤礼之・近江正隆・上田真弓・玉井康之2016「シンポジウム報告『根室地区農協青年部×北海道教育大学釧路校 農と学びの連携を考えるフォーラム2015in根室』」北海道教育大学釧路校ESD推進センター『ESD・環境教育研究』第18巻第1号

教育現場で活用可能な分野等

「食育」「食農教育」「地域理解」等の関連分野で、「食育」指導力の習得や向上、「地域理解」や「地域学習」等のために、教師を目指す学生および現職教員が研修等を行う際に利用可能である。

配付可能な資料の有無

資料あり（すべて北海道教育大学HP「特色ある取り組み—酪農家民泊体験実習」（<http://www.hokkyodai.ac.jp/distinctive/research/project/rakunou.html>）にて確認可能）

- ・冊子体（成果報告パンフレット）
 - 「教育フィールド研究Ⅷ（酪農家民泊体験実習）」
 - 「教育フィールド研究Ⅷ（酪農家民泊体験実習）」（2014）
 - 「教育フィールド研究Ⅷ（酪農家民泊体験実習）」（2015）
- ・添田祥史・近江正隆・神田房行・宮前耕史・白鳥千咲・梶りな・安達永補・小幡泰弘・今泉博2014「命の糧『食』の価値を感じ・考え・伝えるために—教師を目指す学生を対象とした酪農家民泊体験実習の試み」北海道教育大学釧路校ESD推進センター『ESD・環境教育研究』第16巻第1号
- ・宮前耕史・大森享・半澤礼之・近江正隆・伊藤美実・佐々木貴子・玉井康之2015「命の糧『食』の価値を感じ・考え・伝えるために—教師を目指す学生を対象とした『酪農家民泊体験実習』の可能性—」北海道教育大学釧路校ESD推進センター『ESD・環境教育研究』第17巻第1号
- ・久保拓伸・宮前耕史・半澤礼之・近江正隆・上田真弓・玉井康之2016「シンポジウム報告『根室地区農協青年部×北海道教育大学釧路校 農と学びの連携を考えるフォーラム2015in根室』」北海道教育大学釧路校ESD推進センター『ESD・環境教育研究』第18巻第1号

ダウンロード可能なドキュメント

- ・北海道教育大学HP「特色ある取り組み—酪農家民泊体験実習」（<http://www.hokkyodai.ac.jp/distinctive/research/project/rakunou.html>）
- ・北海道教育大学釧路校HP（平成26年度実施報告）http://www.hokkyodai.ac.jp/info_topics/kus/detail/654.html
- ・北海道教育大学釧路校HP（平成27年度実施報告）http://www.hokkyodai.ac.jp/info_topics/kus/detail/1076.html
- ・成果報告パンフレット
 - 「教育フィールド研究Ⅷ（酪農家民泊体験実習）」（http://www.hokkyodai.ac.jp/files/00001400/00001418/pamp_seika.pdf）
 - 「教育フィールド研究Ⅷ（酪農家民泊体験実習）」（2014）（http://www.hokkyodai.ac.jp/files/00001400/00001418/pamp_seika2014-2.pdf）

	「教育フィールド研究Ⅷ（酪農家民泊体験実習）」（2015）（掲載予定（ http://www.hokkyodai.ac.jp/distinctive/research/project/rakunou.html ））
平成28年度以降の展開予定	研究成果について、日本教師教育学会・日本教育大学協会等の機関誌に投稿予定である。また、本研究において作成した「酪農家民泊体験実習」プログラムが、本学とJA北海道中央会との農業体験連携事業に採択されたことから、本プログラムとプログラムのさらなる改善に向けた調査・研究を継続する。研究成果については日本教師教育学会・日本教育大学協会研究集会・日本教育心理学会等で報告を行う予定である。また、「体験」を活かした「食育」「食農教育」「地域理解学習」プログラムの作成の可能性について、酪農民泊体験実習経験者によるネットワークや情報交換のしくみを構築しつつ、検討する。
問い合わせ先	氏名：宮前耕史 電話：0154-44-3309 E-mail：miyamae.yasufumi@k.hokkyodai.ac.jp

※添付資料

- ・「酪農家民泊体験実習」（2015）当日の新聞報道記事
 - ①『釧路新聞』平成27年5月30日1面
 - ②『北海道新聞』（根室版）平成27年5月30日記事
 - ③『日本農業新聞』平成27年12月4日記事
- ・根室地区農協青年部連絡協議会主催・北海道教育大学釧路校ESD推進センター共催シンポジウム「根室地区農協青年部×北海道教育大学釧路校 農と学びの連携を考えるフォーラム2015in根室」2015年11月7日（土）
 - ④ポスター
 - ⑤『釧路新聞』平成27年11月8日記事
- ・『教育フィールド研究Ⅷ』酪農家民泊体験実習（2015）成果報告パンフレット（⑥）